

# (九) 西野道

にしのみち



西野道は渋谷街道の「渋谷西野道」から南へ向かう南北の古道で、勧修寺方面へ通じています。勧修寺の少し手前で川田道と合流しています。この付近には古刹や古民家が存在する歴史ロマンにあふれた古道です。



西野広見町の辺りには今も田や畑が広がりタイムスリップしたような農村風景に出会うことができます。

西野道は室町時代、蓮如上人が山科本願寺を造営するにあたって造られた道ではないかと考えられています。西宗寺の裏には舟溜があり、近くの野色川は運河であったという説もあるなどの西野道の歴史を知る人は少ないでしょうが、昔山科の本通りとして栄え、木材や瓦を運ぶ人々がにぎやかに行き交ったであろうこの道に立つとき、山科の歴史の中でも最も繁栄を極めた山科本願寺が、どのように造られていったのであろうかと思いをめぐらせずにはいられません。

付近を少し散策すれば、山科本願寺の土塁跡もあちらこちらに残っていて、今も歴史の息吹を感じることができる道、それが西野道です。

## 72 西宗寺

蓮如上人が山科本願寺を建立したとき、土地を寄進したのが野村郷の名主、海老名五郎左衛門でした。



西宗寺が放鷹山(ほうおうざん)と呼ばれるのは、蓮如上人が「鷹でさえ、法を聞け(ホーホケキョ)と鳴く」と弟子達を戒めたという故事が由来です。

山科本願寺古地図、蓮如上人形見の御影、御文章等、たくさんのお宝が大切に残されています。蓮如上人形見の御影には、山科本願寺が焼討ちに遭った際、浄乘

の子祐信がこれを一時地面に埋めて隠し、夜半に掘り出して宇治田原に逃れ、その後証如上人(蓮如の曾孫)の後を追って大阪に無事届けたという言い伝えがあります。

## 73 西野の古民家

山科には茅葺の古民家、立派な門構えや蔵を有する旧家等が大切に残されていて、豊かな土地柄であったことがしのべられます。中でも西野山階町にある古民家は、その門前に立つと、そのあまりにも立派な長屋門に圧倒されてしまいます。この古民家は江戸時代の庄屋の屋敷といわれ、美しい葺屋根(以前は茅葺)が旧家の歴史を物語っています。



長屋門は江戸時代の武家屋敷でみられた門の形式で両側が長屋となっていて、そこに家臣を住ませたものです。地方の富裕な農家にも見られたといえます。

# (十) 川田道

かわたみち



現在は南の勧修寺付近から山科北西部への抜け道として知られていますが、歴史的な社寺が沿道に見られます。



川田道が古くからあった道だといふことは、道沿いにある花山稲荷神社の由緒からもうかがえます。神社創建は九〇三年、醍醐天皇が外祖父宮道氏のもとへ行幸の折に見た夢が、創建の発端となりました。天皇が行幸で通ったということとは、その当時、既に道があったとみて差し支えないでしょう。

## 74 花山稲荷神社

謡曲にも登場する名剣「小狐丸」が鍛えられた場所です。境内にある大石内蔵助断食石は付近にあったとも置一〇置ほどの



稲荷塚 石碑と共に現存しています。火焚祭の起源は小狐丸伝説に因むものです。

巨岩で、疏水開通に伴う明治新田開拓の折、爆砕したものの一部を神社で引き取り保存したものです。一月の小正月にはどんど焼きがあり、獅子舞が奉納され、隣接する百々児童館の子どもたちも大勢集まり、歓声に包まれます。



朝日神社では氏子さんたちが今も誇りを持ってお守りしています。

## 75 朝日神社

栗栖野(昔は栗栖の小野と呼んでいました)の朝日神社はこの付近の氏神で、一七四〇年に久世郡寺田村、紀伊郡富森村・下鳥羽付近の人たちが開拓団として移住し

## 76 折上稲荷神社

朝日神社の近くには伏見稲荷の次に稲荷大明神が降臨したといわれる折上稲荷神社があります。神社創建は七一年。境内にはおよそ千五百年前の古墳が現存し、中臣十三墳の一つとされています。



古墳と稲荷信仰の結びつきを現在に伝える折上稲荷神社の古墳。

まだまだ書き切れない歴史がたくさんある川田道周辺。皆さんも散策にいかがでしょうか。